



ニュースレター「OMOTESANDO HILLS PRESS」は、『文化』『環境』『人』『商業』の4つの視点から、表参道ヒルズの“今”をお届けします。

表参道ヒルズ在住の編集者/クリエイター 後藤繁雄氏 インタビュー

今年1月より、表参道ヒルズの住宅、ゼルコバテラスに住んでいる編集者/クリエイターの後藤繁雄氏。住居として、また仕事場として、30年近く表参道や神宮前界隈で過ごしてきた後藤氏に、表参道ヒルズに実際に住んでみての感想や、表参道の街について思うことを伺った。

“表の顔”と“裏の顔”。この二面性への配慮が、住んでいて“刺激的”

昨年2月にオープンした表参道ヒルズ。オープンより1年で1,000万人を集客した商業施設には、もう一つの顔がある。施設上層部に設置された全38戸の住宅、ゼルコバテラスだ。街並みと調和するように表参道のケヤキ並木と同程度の高さに抑えられた建物は、各部屋の窓からはケヤキの梢が眼前に見える。「この前、伊豆の温泉に行ったら、ウチと同じ風景だったよ。季節の移ろいを感じることができるので、面白く、気持ちが良いね」という環境だ。

表参道ヒルズは、建築家の安藤忠雄氏が、表参道の歴史的景観・環境に配慮して建築設計した。その建築思想が、「住んでみて良く分かる」という。

「表側は人が前後からやってきて通過しているんですけど、上にいると以外と静かなんです。後ろの神宮前小学校とか住宅地の環境を反映しているの、東京のど真ん中に住んでいるというような苦しさや非人間的な感じがあまりしないですね。ドアを開けると、小学校で朝礼をやっていたりとか人間的な風景が広がっているんです。いわゆる“表の顔”と“裏の顔”を使い分けている、配慮されているというのを感じます」。

日本を代表する国際的なファッション集積地である表参道。情報の一番新しいもの、ブランドや流行を肌で感じられる地であると同時に、昔からある環境の良さもある。「表参道ヒルズに住むことは、その二面性が非常に良く考えられているという意味で、“刺激的”です」。

クリエイティブに対する独特の磁場を持つ街「表参道」

後藤氏が東京にやってきた70年代終わり頃の表参道の街は、セントラルアパート⁽¹⁾や喫茶店のレオン⁽²⁾など、クリエイターが集まる不思議な引力があった。そして、今も多くのクリエイターが「カッコイイ」仕事をしている。後藤氏は、表参道の街を、「自分もクリエイティブに仕事をしなきゃ、という刺激を人に与える、独特の磁場みたいなものがあるんじゃないかな」と分析する。編集者として、人のクリエイティブな力、人の面白いところや魅力的なものに触れていたいと考えている後藤氏にとって、表参道の街は居心地が良い。「この街にいれば、“クリエイティブに対する戦闘態勢”を作っていられます。ある意味落ち着かないから合わない人もいると思うけど、僕の体質には合っているようです」。

1 「セントラルアパート」 表参道と明治通りの交差点にあったアパート。多くの著名カメラマン、デザイナー、コピーライターなどが事務所を構えていた。1996年に取り壊し。

2 「レオン」 クリエイターが打ち合わせに集っていた、セントラルアパートの1階にあった喫茶店。



“一つの入り口”としてプロデュースした『ミュージックグラフィティ展』

本年 4 月より、表参道ヒルズは、文化性の高いイベントを主催し文化発信を強化するプロジェクトを本格始動させた。後藤氏は、ゴールデンウィークにその第一弾である『ミュージックグラフィティ展』をプロデュースし、著名なミュージシャンとグラフィックデザイナーがコラボレートした LP・CD ジャケットの作品の展示に加え、トークショーやミニライブ、DJ イベントなどを開催した。多くの要素を盛り込んだイベントにしたのは、「ファッション、フードに加えて、音楽やビジュアル、アートなどは、今生きていく人の刺激として必須アイテムだと思う。今の人は様々な刺激をセレクトする力が凄くある」からだと言う。「表参道ヒルズが今後どういう文化発信をしていくかというときの選択肢が、色々初めから詰まっているような展示会にしたらいいだろうと思いました」。

12 月に開催する『NINAGAWA WOMAN』では、生き方への共感をやってみたい

今年の 12 月には、フォトグラファー蜷川実花氏の写真展『NINAGAWA WOMAN』の開催を予定している。「彼女の良いところは、育ちが良く、余裕があって自由でノビノビとしているところですね。『やっちゃいけないことは何?』みたいな自由さに、女性が共感しているんじゃないかな」と話す後藤氏。写真展を通じて、30 代の大人の女性としての生き方、“女であることの快楽”を表現したいと言う。「女性が男性を連れていくような展示会にしたいですね」。

表参道ならではの価値発信をしていくべき

最後に、クリエイティブの面からのこれからの表参道の街の課題を聞いてみた。「六本木や丸の内とは違った、この街ならではの価値発信を、いかに演出してプロデュースしていくかだと思っています。WEB で調べて表参道の街に来たときに、街というリアルな空間が、ある種のテーマパークであり、ファンタジーに溢れる街になってもいいんじゃないかと思っています」。表参道の街から刺激を受け続けてきた後藤氏は、今後も表参道を舞台に、文化発信を続けていく予定だ。

後藤 繁雄プロフィール

1954 年、大阪生まれ。編集者 / クリエイティブ・ディレクター / 京都造形芸術大学 ASP 学科教授・学科長。広告制作・企画・商品開発・web 開発・展覧会企画など、ジャンルを超えて幅広く活動し、“独特編集”をモットーに、写真集、アートブックなどを数多く制作。また、インタビュー・ライターとして『high fashion』『エスクァイア日本版』『InterCommunication』などで、数々のアーティストへのインタビューを手がける。そのほか、東京・六本木のギャラリー、magical, ARTROOM の共同運営、アートアワードトーキョーのコミッティ、写真プロジェクト「G/P」など、新しい文化創出のための仕事に取り組む。07 年 9 月、若木信吾ポートレート写真集『TIME and PORTRAITS』、また『high fashion』での非定型対談に書下しを加えた自著『ノマディズム』(両冊とも artbeat publishers 刊)を刊行予定。代表作品:「観光」(細野晴臣 + 中沢新一)、「テクノドン」(YMO)、「TOKYO LOVE」(ナン・ゴールデン + 荒木経惟)、東京の若手写真家のムーブメントを引き起こした写真シリーズ「TOKYO PHOTO+GRAPHICS」(高橋恭司 / 長島有里枝 / ホンマタカシなど)など。

参照 URL: <http://www.gotonewdirect.com>

- 内容に関してのお問合せ、後藤繁雄氏の顔写真をご入用の際には、下記までご連絡頂けます様
お願いいたします。
- このインタビュー記事は、本文をご自由にご利用下さい。
- ご取材を頂ける際には、下記までお問合せ下さい。

< お問合せ先 >

森ビル株式会社 表参道ヒルズ運営室
プロモーショングループ: 石川・北川

TEL 03 - 3497 - 0292 FAX 03 - 3497 - 0318

表参道ヒルズPR事務局: 中山・高田

TEL 03 - 5775 - 1560 FAX 03 - 3403 - 0508

【参考】

「MUSIC GRAFFITI / ミュージックグラフィティ展」

2007年4月27日(金)～5月13日(日)に開催した「ミュージック×グラフィックデザイン」をテーマとしたエキシビション。70年代から現在に至るLP・CDジャケットのグラフィックデザインをテーマとし、SMAP×佐藤可士和や松任谷由実×信藤三雄など、著名なミュージシャンとグラフィックデザイナーがコラボレートした作品の展示ほか、トークショーやミニライブ、DJイベントなどを開催。流行・文化を生み出してきた「ミュージック×グラフィックデザイン」の世界を紹介した。

プロデュース : 後藤 繁雄 + Tokyo TDC 東京タイプディレクターズクラブ
スーパーバイザー : 立川 直樹



展示の様子

表参道ヒルズ スペース[0:](オー)展覧会

蜷川実花 写真展「NINAGAWA WOMAN」

開催期間:2007年12月13日(木)～2008年1月6日(日)

クリスマスから新しい年にわたり、人気写真家・蜷川実花と表参道ヒルズが全女性たちに贈る女性讃歌写真展。各界で活躍する女性ポートレート約100点を展示予定。

プロデュース : 後藤 繁雄

表参道ヒルズとは

表参道ヒルズは、日本のファッション、文化の中心としてトレンドを発信し続けてきたストリート・表参道の新たな核として2006年2月に誕生した、世界に類をみない文化商業施設です。

本館中央の6層(地下3階～地上3階)の吹き抜け空間や、それを螺旋状に囲むように表参道の坂とほぼ同じ勾配を持つ長さ700mの“スパイラルスロープ”(第二の表参道)、吹き抜け空間中央(地下1階から地下3階)の大階段、そして大階段につながる地下3階には約500㎡の広さを持つスペース[0:](オー)が配置されています。約270mのファザードを構え、延床面積34,061㎡、約100の専門店が集う商業施設、38戸の住宅(ゼルコバテラス)、全216台の駐車場で構成された複合施設です。

所在地 : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-12-10
代表電話番号 : 03-3497-0310(総合インフォメーション/受付時間 11:00～21:00)
URL : www.omotesandohills.com